

ICT活用による業務の効率化

中核校	留萌市立留萌小学校	指定校	留萌市立港北小学校、留萌市立港南中学校
-----	-----------	-----	---------------------

実践前の状況

- ・名簿を各担当が手入力するなど、既存データを効果的に活用できず手間のかかる場面が多々あった。
- ・児童の欠席状況など教職員間で共有すべき様々な情報を有効活用することができていなかった。
- ・斡旋教材などアナログな方法による申し込み集約、現金集金など学級担任の負担が多々あった。

実践の概要

エクセル活用で校務のDX化を推進

- ・全校名簿を多機能なデータベースとして整備し、ワークエリのテクノロジーで校内のあらゆる名簿作成にリンクさせることで、運動会の選手名簿、児童会役員名簿、集団下校名簿などボタンを押すだけで作成できるシステムを構築した。
- ・時間割作成システムを作成し、学年打合せ資料から時間割作成、時数集計まで自動化した。
- ・図書貸出システム、各種集計システム（いじめアンケート、チャレンジテスト、インフルエンザ欠席状況）などをエクセルマクロにより業務を自動化した。

保護者アンケート等をICT化

- ・Google アンケートフォームを活用し、各種アンケート、斡旋教材の希望とりまとめ、個人懇談の日程調整、学校評価等の意見などをオンラインで集約し、集計を自動化した。

情報発信、欠席連絡の収集などを、連絡網アプリの活用により効率化を図った。教職員間の情報共有

- ・デジタルサイネージ、校務支援システム、教職員向けのHP、Teamsなど様々なICTツールを活用し、教職員間の情報共有をよりスムーズに快適化した。
- ・健康調べを紙ベースからTeamsを利用してデジタル化・共有化することで、児童が保健室まで届ける労力と時間を削減した。

作業の分散とAI活用

- ・分掌反省や行事後の反省などは担当者や全職員がそれぞれに入力したものを自動集計し、まとめや要約もAIを活用するなど、労力を大幅に削減した。

実践の充実にに向けた取組の工夫

〔校長の取組〕

- ・指定校と連携を図り、本校の実践を広めるよう情報共有を図った。
- ・学校間事務連携の取組を推奨し、事務職員間の連携による他校の業務改善の支援を行った。

〔事務職員の取組〕

- ・分掌を越えて校内の業務に関わり、率先して効率化・自動化を図りDX化を進めた。
- ・全教職員がICT化に対応できるよう研修や講座などを企画し啓発を推進した。
- ・学級担任の負担を軽減し、児童と向き合う時間を確保するため、現金集金などの業務を効率化した。

成果（ ）と今後の課題（ ）

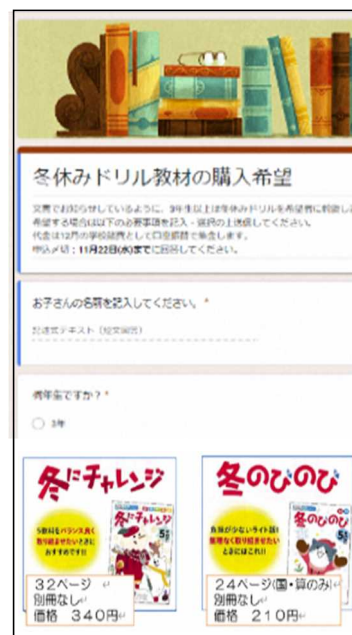
書類や名簿作成などの業務が大幅に削減され、校務の効率化が図られた。

〔学校評価（教職員）の「教育的効果と業務コストのバランスを考え、業務の効率化・精選を行っている」の項目について、肯定的な評価が多くなった。（R4後期：84% R5後期：91%）〕

ICT化へ全教職員の意識が高まり、アイデアや要望を自由に発言できる土壌ができた。

図書の貸出・返却がスムーズに行われることで読書活動の充実に図った。

今後、教職員の異動や使用機器の変更、ソフトのアップデートに支障なく対応できるようマニュアルと研修を充実させる必要がある。



【斡旋教材の希望をオンラインで集約】



【デジタルサイネージで情報共有】